

Slovenia Monthly December 2017

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年1月29日



～12月の主なポイント～

- 政治：** パホル大統領、2期目就任、「改革の推進、良い経済政策」を強調。
スロベニア・クロアチア国境画定問題：スロベニアは関連法案を可決、仲裁裁定の履行開始。
コウシュツァ新国民評議会（上院）議長が選出、国民議会（下院）との連携促進に意欲。
- 経済：** 2017年観光収入、前年比9%増加見込み。経済大臣：「好成績は観光促進戦略の成果」。
- 企業：** 新リュブリャナ銀行、民営化の延長要請。欧州委：「同行存続のため民営化は不可欠」と強調。
- 社会：** クレント・カーニバルがUNESCO無形文化遺産登録。シュコフィア・ロカ受難劇に続き2件目。
国連総会、スロベニアジニ養蜂家の誕生日である5月20日「世界蜂の日」を満場一致で承認。

政治

【内政】

●パホル大統領、2期目就任【22日、23日】



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

22日午後6時より国会にて開催されたブルグレス下院議長主催「スロベニア独立と統一の日に係る国民議会特別会合」の際に合わせて執り行われた大統領の就任宣誓式にて、パホル大統領はスロベニア憲法に基づく宣誓の後、就任演説を行った。なお、同宣誓式には、国民議会議員のほか、ツェラル首相、各省大臣、政府高官及び各国大使等が出席した。パホル大統領は就任演説において、大統領としても抱合的な社会を作り上げられるよう更に尽力したい

旨の抱負を述べた後、国の発展のためには発想の飛躍、改革の推進、及び良い経済政策を施すことが不可欠であると強調。外交政策においては、国際仲裁裁判所の仲裁の下、スロベニアがクロアチアとの国境画定問題を平和裏に解決したことを歓迎し、クロアチアもまた仲裁裁判所の最終裁定を尊重するものと期待すると言及。



(Photo: Bor Slana/STA)

なお、23日、福田駐スロベニア大使夫妻は、大統領府におけるパホル大統領の就任式典に出席し、大使よりパホル大統領に対して、天皇陛下の御祝電を伝達した。大統領府内クリスタル・ホールにて一般市民向けに開催された同就任式典で、パホル大統

領がスピーチした後、福田大使よりパホル大統領に対して天皇陛下からの御祝電の伝達が執り行われた。最後に、大使夫妻は、ほかの参加者らとともに、2017年ユーロビジョンコンテストのコラス部門で優勝(Eurovision Choir Of The Year 2017)を果たした「Carmen Manet(カルメン・マネト)」グループによる合唱を鑑賞した。

●スロベニア・クロアチア国境画定問題: 国内の動き【12日】

12日、スロベニア政府の代表は、仲裁合意により影響を受けるクロアチアとの国境地域を訪問し、スロベニアの法制度により住民に付与される権利の行使を支援していくとの方針を説明した。レンダヴァ市民の代表は、要求した支援を政府から得られたとして政府の対応に満足の意を表明した。レンダヴァ市における問題は、農地がクロアチア側に帰属すると定められた農家の権利であり、政府は、その補償として100ヘクタールの農地を対象の農家に与えることを決定した。

13日、コズロヴィツァ・政府事務総長率いる政府代表団は沿岸地域を訪問し、仲裁裁定により影響を受ける地域の住民と意見交換を行った。影響を受ける漁業関係者との懇談の中で、仲裁裁定により操業に影響を受ける漁師に対する補償を定めた緊急法の内容、法的支援、海上での安全確保及び漁業を巡る歴史的な権利等につき意見交換が行われた。沿岸地域においては、仲裁裁定の履行に際し、住居がクロアチアに帰属することが確定した5家族がスロベニア側に移住することに関心を示している。

●コウシュツァ新国民評議会議長が選出【12日】

12日、国民評議会(上院)は、アロイズ・コウシュツァ(Alojz Kovšca)議員を国民評議会(上院)議長に選出した。議長選挙では、コウシュツァ氏のほか、ポポヴィツァ(Boris Popovič)コペル市長及び、カリル(Samer Khalil)チュルノメリ(Črnomelj, スロベニア南東部)市長の3名が立候補し、それぞれ21票、9票、4票を獲得。コウシュツァ議長の任期は5年。前期の評議会でも議員を務めた52歳の同氏は、現在リュブリャナ・ベジグラッド小規模企業協会(Ljubljana-Bežigrad chamber of small business)会長。ユーゴスラビア人民解放軍の軍人の家に生まれ、軍学校を卒業した後、リュブリャナ大学で防衛政治学の学士号取得。訓練された腕時計の修理職人、金細工師でもあり、家族経営の事業を営む。コウシュツァ議長は、就任スピーチにおいて、「国民議会(下院)と国

民評議会との間のコミュニケーションをより促進することにより、更に社会貢献ができるだろう」と期待を述べた。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●シャレット氏、国民議会総選挙に意欲【15日】

15日、大統領選でパホル大統領を相手に善戦したマリヤン・シャレット氏は、中道左派系の週刊誌ムラディナ(Mladina)紙のインタビューに応じ、2018年の国民議会議員総選挙では、「なるべく多くの票を獲得し議会政治に参加する」と意欲を示した。また、首相になることを考えているかとの問いに対しては、「現時点ではそのような偉そうなことは言えないが、通常、総選挙に臨む政党の党首は、その能力を有することが求められる。自分も、その自信がなければ総選挙に臨むことはない」と述べた。なお、重要政策として、企業からの税徴収等の管理強化、医療制度の効率化、肥大化した政府内手続きの簡素化、気候変動への対応の一環としてクルシュコ原子力発電所の拡大等を挙げている。なお、シャレット氏が率いる「Marjan Sarec List」党は、世論調査において支持率が最も高い政党となっている。

●社会民主党(SD)のベテラン議員が離党【19日】

19日、連立与党の社会民主党(SD)のベテラン議員でありSD副党首の一人であるヴェベル(Janko Veber)議員は、SD議員グループから離れ、無所属議員となる旨発表した。ヴェベル議員は、コペル・デイヴァチャ間の第2鉄道路線建設や固定資産税等の法案を例に挙げ、SD内の投票姿勢についての合意を取り付けることが困難となってきたと説明した。同議員は新しい政党を立ち上げるとの情報もある。ヴェベル議員は、ツェラル政権発足時に国防大臣として任命されたが、その後テレコム・スロベニアの民営化にかかるスキャンダルにおいて軍の情報機関に

調査を命令したとして免職となった。なお、SDはヴェベル議員の離党によって、現有議席は5席、連立与党は51議席となった。

【外政】

●エリヤヴェツ外務大臣、V4外相会合出席【4日】

4日、ブダペストで開催されたV4外相会合に出席したエリヤヴェツ外相は、EUの西バルカン地域への拡大、シェンゲン領域及びエネルギー安全保障の強化を呼びかけた。同外相は、移民の流入の現状として「組織犯罪の手助けで、数百万人もの人々が欧州への移住を目指したが、それを阻止するために殆ど何もされておらず、欧州共通の解決策の欠如から、個々の国々は国民の保護のための措置を執らざるを得なくなった」と述べた。また、同外相は、社会保障及び市民の団結強化のためには強い欧州が必要であるとし、シェンゲン領域の拡大を支持していると述べた。エネルギー安全保障の強化につき同外相は、エネルギーのソースの多様化及び安全保障強化のために必要なインフラ整備を行うことの重要性を強調し、スロベニアに本部を置く欧州エネルギー規制庁(ACER)の役割強化を支持した。

●国連人権理事会議長にシュッツ大使選出【4日】

4日、外務省は、ヴォイスラブ・シュッツ(Vojislav Šuc)駐ジュネーブ国際機関大使が、2018年度の国連人権理事会議長に選出された旨を発表した。同大使は、「自分は、議長として理事会の効率性強化、評判及び知名度の向上及び他の国連機関との協力を強化していく。また、自分は、理事会内の建設的な雰囲気、対話及び信頼性向上を目指す」との方針を表明した。スロベニアは2016年から2018年の3年間の任期で人権理事会メンバーとなっている。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

●エルサレム首都宣言、スロベニアの見解【4日、11日】

6日、スロベニア外務省は、トランプ米大統領が、エルサレムをイスラエルの首都と認定する決定を下したことにつき、本件決定は、イスラエル・パレスチナ

紛争の解決に向けた国際社会の努力を害するものであるとの立場を表明した。また、外務省は、対話及び国際法の基本的原則の尊重を通じた上で、エルサレムを両国の将来の首都と定めた「2つの国家」という解決策が、両国及び周辺地域の平和と安定に向けた唯一の道であると述べた。

11日、エリヤヴェツ外相は、ネタニヤフ・イスラエル首相とEU側との協議後に声明を発出し、「米国が大使館をエルサレムに移管するとの決定につきEU側の立場は一致している。EUも米国を追従するというネタニヤフ首相の発言は事実ではない。モゲリーニ上級代表からの照会に対し、どのEU加盟国もテルアビブから大使館を移すとは回答していない」と述べた。また、スロベニア政府によるパレスチナ承認に向けた動きにつき同外相は、承認プロセスは一時停止したが、2ヶ国以上のEU加盟国が承認プロセスを開始すれば、議論が再開するであろうと述べた。

●平昌五輪、ロシア選手の参加禁止は「フェアでない」【6日】

6日、国際オリンピック委員会(IOC)による2018年平昌冬季オリンピックへのロシア選手団参加禁止の決定を受けて、元スロベニア・オリンピック委員会委員長のコチヤンチッチ(Janez Kocijančič)ヨーロッパ・オリンピック委員会(EOC)新会長は、「国家ぐるみで組織的に行われていたドーピングに対する措置としては、非常に厳しい判断である」とし、不正を犯していない選手に対してフェアでないと、発言した。また、ロシアはソビエト連邦時代を含め1700以上のメダルを獲得しており、ロシアがなければ多くの種目においてトップクオリティがみられない」と語った。

同様に、(同問題について、5日、国際オリンピック委員会(IOC)が平昌冬季五輪には潔白が証明された選手のみ参加を認める決定を受けて)ガブロヴェツ(Bogdan Gabrovec)スロベニア・オリンピック委員会委員長は、個人的な意見であると前置きした上で、ドーピングを行っていないすべてのアスリートは自分の国旗のもとオリンピックに出場する権利を持っている。ロシア選手がIOC旗のもとで参加できるという決定は、一種のバンドエイドのようなもので、そこに発生する感情はロシア人選手として出場する場合のものと同じではない。」と述べた。

●ブルグレス議長、アイルランドを公式訪問【6日】

6日、2日間にわたりアイルランドを公式訪問中のブルグレス国民議会議長は、ヒギンズ大統領及びフォイル・アイルランド下院議長らと会談し、英国のEU

離脱及びEUの将来等につき協議した。ブルグレス議長は、「アイルランドは、EU離脱交渉において、英国がEU加盟国であるアイルランドと国境を接する北アイルランドとの国境において国境管理を強化することを懸念している。我々は、彼らの妥当な主張に関しては、アイルランドとの結束を示すことが重要である」と述べた。同訪問における協議では、EUの将来及びスロベニア・クロアチアの国境問題、ロシアや米国への対応等についても触れた。なお、スロベニア要人のアイルランド訪問は、同議長の訪問が11年振りとなる。

●内務副大臣、EU 司法・内務担当委員会に出席【7日】

7日、シュペンガ (Andrej Špenka) 内務副大臣は、EU司法・内務担当委員会に出席し、シェンゲン改革の議論に参加した。シュペンガ内務副大臣は、同会合にて「スロベニアは、常に最も保護すべき国境はシェンゲン域内国境ではなく、EU対外国境との立場である。現在、様々な国境において異なる制度が導入されており、スロベニアを含む特定の国々の負担が大きくなっている。EU加盟国は、制度を選択的に導入することをやめ、効果的な情報交換を促進しない限り、相互信頼は得られない」と述べた。また、本会合では、EUにおける難民のアサイラム申請等に関するダブリン規約の改革についても議論した。

●エリヤヴェツ外務大臣、OSCE 外相会合に出席【7日】

7日、ウクライナ問題及び欧州の安全保障に関する欧州安全保障協力機構 (OSCE) 外相会合に出席したエリヤヴェツ外相は、「スロベニア政府は、ウクライナの主権、領土一体性及び独立を支持している」として、ミンスク合意の履行を呼びかけた。また、同外相は、ウクライナに展開するOSCE監視団の安全確保及び制限のない移動を確保することが重要であると述べた。さらに、同大臣は、スロベニアは2018年後半にOSCEの安保協力フォーラム議長国となることから、安全保障及び軍備管理分野での貢献や、西バルカン及び地中海地域での信頼醸成、治安強化及び対話を促進していくとの方針を発表した。

スロベニアに迫る！ ⑤8

イヴァン・ツァンカル 没後100周年

2018年、スロベニアにおける最大の作家のひとりであるイヴァン・ツァンカル (Ivan Cankar, 1876-1918)

の没後100周年を記念し、リュブリャナ市と同作家の故郷であるリュブリャナ近郊のヴルフニカ市 (Vrhnika) で各種イベントが企画されています。



イヴァン・ツァンカルは、1876年、貧しい家庭に生まれ、3歳の時、実家が火事に遭ってから、住居を転々としつつ、故郷にて初等教育を修了した後、リュブリャナの技術学校に入学。この頃から、詩を中心に執筆活動を開始しました。当初は、プレシエレンやハイネ等、ロマン派の影響を受けていましたが、その後、スロベニアの作家、アシュケルク (Anton Aškerc) の叙事詩に出会い、写実主義、民族自由主義に傾倒していきました。1896年、ウィーン大学に入学したツァンカルは、ヨーロッパ文学の自然主義や象徴主義等、新しい思想を吸収していく一方で、オーストリア＝ハンガリー帝国の保守主義に反発を覚え、ユーゴスラビア社会民主党の一員となりました。

2度のウィーン滞在を終え、1909年にリュブリャナに戻ったツァンカルは、今度は、ユーゴスラビア社会民主党の、セルビア、クロアチア及びスロベニアの文化・言語を統一するというユーゴスラビア文化統一のビジョンを拒み、スロベニア語及びスロベニア文化の独立を主張していきます。

貧困や母の死、第1次世界大戦等の経験が、執筆活動に大きく影響していると言われ、時にフランツ・カフカやジェームス・ジョイスに比較されるツァンカルの代表作は、地方のプロレタリア階級の生活を描いた「丘の上 ("Na klancu", 1902年)」、使用人の雇用者との衝突及びその後の葛藤を描いた「使用人イェルネイと彼の正義 ("Hlapec Jernej in njegova pravica", 1907年)」などの小説と、現在でも舞台上で演じられる「農奴 ("Hlapci", 1910年)」などの劇です。ツァンカル研究の第一人者であるナベルゴイ (Avsenik Nabergoj) 氏は、ツァンカルが描く人間のジレンマ、孤独感、失望と思慕など、強く心に訴えるものがあると述べています。また、ジェームス・ジョイスに比較されることのあるツァンカルの作品は、その内容、描写ともに常に時代の先を行っていたと多くの専門家が評価しています。

なお、リュブリャナ市最大級の国際会議場・文化ホール「ツァンカルイェブ・ドム (Cankarjev Dom)」は、彼の生誕100周年を祈念して考案され、1982年に完工されたものです。(写真: STA, <http://www.visitvrhnika.si>). 出典: STA, Wikipedia)

●スロベニア・クロアチア国境画定問題:外交における動き【19日, 20日, 30日】

19日, ツェラル首相はクロアチアを訪問し, プレンコビッチ首相との間で, 最終裁定の履行につき協議したが, 問題解決に向けた進展はなかった。ツェラル首相は, 最終裁定が両国に対し, 法的拘束力を有するものであり, 本件問題の解決の唯一の方法は, その履行であると強調したのに対し, プレンコビッチ首相は, 最終裁定は, スロベニアが選出した仲裁裁判官とスロベニア政府が接触したことを理由に裁定の有効性を認めないとの従来の立場を繰り返し, 二国間合意に向けた法的枠組みを提示するにとどまり, 議論は平行線をたどった。

20日, ブリュッセルにて, ティーマーマンス欧州委筆頭副委員長は, 欧州委員会が, 19日に行われたスロベニアとクロアチアの首相間の会議を含む国境画定問題の最新動向について議論したことを明らかにした。同副委員長は, 「ツェラル首相がザグレブを訪問しプレンコヴィッチ首相と議論したことは良い兆候であり, 両当事者の希望があれば, 履行プロセスを手助けする用意がある」と述べた上で, 「合意がない場合, 我々の最大の義務は衝突の防止である」と強調。なお, 本件支援のためティーマーマンス副委員長は両国を訪問する予定であったが, 12月中の同訪問は実現しなかった。

30日, スロベニア政府は対クロアチア国境における最終裁定の履行を公式に開始し, ピラン湾におけるスロベニア水域もスロベニア側の完全な管理下に入った。同日, クロアチア警察のボートと共に, 3隻のクロアチアの漁船がスロベニアの水域に侵入したことを受け, シェフィッチ内務副大臣は, スロベニア警察は同事件を記録し, 今後, 適切な措置を取っていくとの立場を表明した。それ以外には, 越境事件は発生せず, 国境付近における状況は比較的平穏に推移した。

●パコリ外務大臣のスロベニア訪問【19日】

19日, パコリ・コソボ外務大臣がスロベニアを訪問し, エリヤヴェツ外相との間で会談を行った。同会談において両外相は, 両国の良好な政治・経済関係を確認した上で, エリヤヴェツ外相は, スロベニアの知見を活かして, コソボのEU及びNATO加盟努力を支援していくとの方針を強調した。また, 両者はエネルギー, 環境技術, ウィンターツーリズム及び食品産業等の分野を中心とした投資拡大についても議論し, 2018年3月にエリヤヴェツ大臣がビジネス関係者と共に, コソボを訪問することを発表した。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

経済

【マクロ経済・統計】

●マネーロンダリング防止, 企業情報の新システム導入【11日】

11日, マネーロンダリング及び金融テロリズム防止法の下, スロベニア公法文書登録局 (Agency of the Republic of Slovenia for Public Legal Records and Related Services, AJPES)は, 各企業の最終所有者の情報管理のための新規アプリケーションを導入する。各企業の株式等の最終所有者のデータ入力期限は1月19日。この新規アプリケーションにより, マネーロンダリング及び金融テロリズムに関係する監督当局や警察当局等が, 生年月日, 税登録番号及び国籍以外に関し, 企業主にかかるデータを閲覧することができるようになる。本システムは, スロベニアにおいて登録された外資系企業, 及びスロベニアにて課税対象となる外資ファンド等も対象となる。

●経済大臣, WTO 閣僚級会合に出席【12日】

12日, ブエノスアイレスで開催されたWTO閣僚会合に出席したポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は, WTOの枠組みを通じた機能的な貿易システムは, スロベニアの対外貿易にとって鍵となるものであるとの見方を示した。同大臣は, 効率的なWTOのみが, 貿易, 持続可能な経済開発, 包括的な発展及び雇用創出を強化することが出来るであろうと述べた。

●2017年の観光収入, 前年比9%増加【19日】

19日, ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は, 2017年の観光業の業績につき発表した。2017年末, 観光客による宿泊日数は1200万日, 外国観光客からの収入は20億ユーロに達することが予想され, 2016年比9%の増加となる。ポチヴァルシェク大臣

は、「この好成績は偶然ではなく、観光促進戦略のたまものである」とし、政府が観光促進に1000万ユーロ投資したと説明した上で、今後は観光業開発を促進する法案を準備し、引き続き同セクターを盛り上げてゆくと意欲を示した。



(Photo: Bor Slana/STA)

【金融・企業関係】

●新リュブリャナ銀行、民営化の延長要請【21日】

21日、エルマン財務大臣は、スロベニア政府が欧州委員会に対し、新リュブリャナ銀行(NLB)の民営化の開始を2018年後半に延期するよう提案することを決定した旨明らかにした。2013年の欧州委員会との合意によれば、NLB株式の75%の売却のうち、少なくとも50%は2017年末までに売却され、残りは2019年末までに売却される予定であった。しかし、本年6月、政府は投資家から提示された査定価格が不相当との理由から株式公開(IPO)による売却を取りやめていた。他方、欧州委は、本件に関するスロベニア政府からの提案書を既に受領しており、今後対応策を検討するとして、NLBの民営化は同銀行の存続可能性に不可欠であるとの見解を再度強調した。

社会・文化・スポーツ

●クレント・カーニバル、UNESCO 無形文化遺産に登録【7日】

6日、ソウルで開催されたユネスコ無形文化遺産保護のための政府間委員会セッションにて、キリスト教のざんげ節の季節(2月2日から灰の水曜日まで)に行われるクレントの戸別訪問(Door-to-door rounds of Kurenti、通称クレント・カーニバル)が、ユネスコの無形文化遺産にリスト入りすることが決定した。スロベニア北東部にある国内最古の街として知

られるプトウイ市及びその周辺で行われる同カーニバルは、悪魔に扮した者たちが木製の棒を持ち家々を走りながら周り、鳴り響く大きな鈴の音や振り回す棒が冬と邪気を追い払い、春と幸せを呼び込むとして古くから言い伝えられており、地域の老若男女が参加する伝統行事である。

UNESCO 委員会は、クレントの儀式が社会慣行、舞台芸術、自然の知識、伝統工芸の様々な文化的表現を組み合わせていると評し、また、関係するコミュニティの地域的アイデンティティーの鍵であると述べた。クレントの衣装は、羊の皮、チェーンで巻かれた大きな牛の鈴、レッグウォーマー、角または羽がついたかぶり物、とがった鼻と赤い舌で構成されており、スロベニアに保存されている150の伝統衣装の中で最も特徴的である。カーニバル期間中は昼夜にわたり、パレードやコンサート、民族文化のイベントなどが行われる(スロベニア・マンスリー2016年1月号参照)。

なお、クレント祭りは、シュコフィヤ・ロカのキリスト受難劇(Škofjeloški pasijon)に続く、スロベニアの2番目の無形文化遺産となった(スロベニア・マンスリー2016年12月号参照)。



(Photo: Bor Slana/STA)

●バイアスロン WC、ファク選手が2位入賞【8日】

クロスカントリースキーとライフル射撃を組み合わせたバイアスロン・ワールドカップにて、ヤコブ・ファク(Jakov Fak)選手が、8日、10KMスプリント部門で3位入賞、9日、12.5KM個人追い抜き(パシュート)部門で2位入賞を果たした。ファク選手は、3日には、スウェーデンで開催された大会にて12.5KM個人追い抜きで2位入賞を果たしており、2週間前に開幕した今シーズンのワールドカップにて、連続して3つのメダルを獲得したことになる。

[参考]①個人追い抜き(パシュート):2.5km(女子は2km)のコースを5周し、伏射と立射組み合わせ

た合計4回の射撃を行う。射撃で外した弾1発につきペナルティループ(150m)を1周する。事前に行うスプリントの際のタイム差でスタートのタイム差が決定され、例えば、スプリントで1位の5秒遅れで2位ゴールの選手は、1番目の5秒遅れでスタートし、前方の選手を追い抜かさなくては勝利できない。

②スプリント: 3.3km(女子は2.5km)を3周し、伏射、立射の合計2回射撃を行い、外した弾1発につきペナルティループ(150m)を1周する。滑走所要タイムによって順位が決定される。



(Photo: Stanko Gruden/STA)

●冬季オリンピック、ユニフォーム決定【19日】

19日、スロベニア・オリンピック委員会(OKS)は、2018年平昌冬季オリンピックのスロベニアチームのユニフォームを発表した。ガブロヴェツ OKS 委員長は、「緑、白、青を基調とした同ユニフォームは美しいのみならず、勝利に相応しいデザインである」と述べた。



(Photo: Bor Slana/STA)

●国連総会、5月20日「世界蜂の日」承認【20日】

20日、国連総会は、スロベニアの養蜂家アントン・ヤンシャ(Anton Janša)の誕生日である5月20日を「世界蜂の日 World Bee Day)」に制定することを満場一致で承認した。このイニシアティブは、2014年、農業におけるミツバチの役割の理解促進のためスロベニアの養蜂協会によって開始された。国連食糧農業機関(FAO)によると、ミツバチや他の花粉を運ぶ昆虫、動物、鳥類は、世界の食糧3分の1の生産過程に関わり、食糧の安全保障に不可欠な役割を果たしている。

今回の決議案は、国連加盟国に対し、持続可能な発展のために、蜂や他の花粉媒介者の重要性及びその保護を脅かす課題等について認識を高めることを目的とした教育及び啓もう活動を呼びかけた。なお、同国連総会に出席したジダン副首相兼農林食糧大臣は、「世界蜂の日」制定運動への協力関係者に感謝の意を表するとともに、蜂や他の送粉者の保護、生物多様性及び食糧安全保障の確保に尽力したい旨の意欲を示した。(アントン・ヤンシャについては、スロベニアマンスリー2016年5月号参照)。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

発見！スロベニア

牧山純子氏～日本・スロベニアに橋をかけるジャズヴァイオリニスト



この度、ジャズヴァイオリニスト牧山純子さんの最新アルバム『ルチア～スロベニア組曲』が、日本の代表的ジャズ専門誌「ジャズジャパン」の2017 ジャズジャパンアワード特別賞(Jazz Japan Award 2017 Special Award)を受賞されました。2015年、スロベニアとの交流が始まった牧山さんは、2016年6月、日スロベニア外交樹立25周年の記念行事の一環として、ブレッド城にて開催された東日本大震災追悼コンサートで演奏され、2017年には、スロベニア各地を訪れ、その土地の人々と交流するなど、精力的かつボランティアに日本・スロベニア音楽文化交流に貢献されてきました。このような牧山さんのご活動、そして、スロベニアの魅力が引き出したヴァイオリンの音色が、今回の受賞につながりました。

同氏のフェイスブックでは、牧山さんは、『ルチア～スロベニア組曲』が「スロベニアの魅力満載の風土から刺激されて作曲」されたものであり、メジャーデビュー10年という記念すべき年に「国境を越え音楽で繋が



れたこと、また新しい世界に進めることを心から感謝」されていると綴っています。2月17日、日産自動車横浜グローバル本社ギャラリーにて賞の受賞式とセレモニー・ライブが予定されているほか、本年、スロベニアにおいても『ルチア～スロベニア組曲』のリリースライブが予定されています。

(出典：<https://www.facebook.com/junkoviolin/posts/2048577138705348>)

冬特集！

リュブリャナの美術館・博物館カフェ巡り

常に様々な文化を受け入れてきたスロベニアの首都リュブリャナには、小さな街でありながら20以上の美術館・博物館が存在しますが、その魅力の一つは併設のカフェ。開放的でモダンな空間、こだわりの珈琲、ジャズ風のBGM、それぞれのカフェに特徴があります。今回はその一部をご紹介します。毎月第1日曜日は、全ての美術館・博物館が無料にて公開されます。ぜひ訪れてみて、お気に入りのスポットを見つけてはいかがでしょうか。

1 Museum of Modern Art

(住所：Cankarjeva 15)

開店時間：火-日：11～20時(金曜のみ：～24時。月曜定休)

現代美術館の地下にある「Moderna」は、スロベニアの若手芸術家に人気のあるカフェ。ソファなどが置かれたリラックスした空間。豊富な種類のコーヒーやお茶・ハーブティのほかワインも提供され、夜遅くまで開店しています。お勧めは焼き立てのパナナケーキ。

2 National Gallery

(住所：Prešernova cesta 24)

開店時間：火-日：10～18時(木曜のみ：～20時。月曜定休)

市内中心に本店のある Zvezda Cafe の支店。開放的な美術館入口には、市庁舎前にレプリカが置かれている、市内最大級のバロック彫刻「3つのカルニオラ川の噴水」の原物があり、その奥にカフェと美術館ショップがあります。おすすめは、フレッシュレモネード。



3 City Museum

(住所：Gosposka ulica 15)

開店時間：火-日：10～18時(木曜のみ：～21時。月曜定休)

旧市街の街角にある美術館。中庭を眺めるカフェは、石畳のフロアとミニマリストなガラス張りの空間です。おすすめは、豊富な本格的コーヒー。エスプレッソは3種類、フィルター珈琲は5種類の豆から選べます。おすすめは、グアテマラコーヒーです。



4 Ethnographic Museum

(住所：Metelkova ulica 2)

開店時間：火-日：午前7時～午前1時(金・土曜：～午前3時まで。月曜定休)

民族博物館や国立博物館のあるメテルコヴァ広場。その一角にある「Kavarna SEM」カフェ、夏にはそのテラスが市民の憩いの場となりますが、冬でも店内でフレッシュジュースやスムージー、各種サンドイッチも楽しめます。おすすめは、ユニークな目玉焼きトースト。



在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。4月号では熊本県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【広報文化班からのお知らせ】

●RTV スロベニア「極上の京都」の放映開始

今月より、RTV スロベニアにて KBS 京都制作のテレビ番組「極上の京都」が放映開始となりました。この番組は、京都を活動拠点とする各分野のマエストロが、自然、モノ、食べ物、お店など「とっておきの京都」を紹介する番組です。

○放映チャンネル: SLO 1

○放映日時: 月曜～金曜 12:35～13:00

○全24回

○再放送: その週に放映された5回分が週末に SLO 2 にて再放映されます。

土曜午前8:10より2回分、日曜午前6:10より3回分。

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が多発しています！

リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が多数発生しています。

被害場所が多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、リュブリャナ以外では、ブレッド城、ポストイナ洞窟でも被害が発生しています。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入らず、異変を感じたらすぐに確認してください。